米子医学会

第190回米子医学会例会

昭和60年3月27日

一般講演

2. 顆粒球コラゲナーゼの臨床的意義

鳥大第二内科　村脇義和，池田文昭，
谷本浩一，平山千里

顆粒球には活性型コラゲナーゼが存在しており，生体におけるコラーゲン分解系に関与しているものと考えられる．今回その臨床的意義を明らかにするため，各種肝疾患および活性型コラゲナーゼ活性を測定した．肝疾患では総コラゲナーゼ活性は，肝線維化の進行と関連して増加したが，活性型コラゲナーゼ活性は肝の慢性活動性肝病変と密接に関連していた．消化器系癌患者では総および活性型コラゲナーゼ活性とも有意に増加し，活性型は早期癌に比べて進行癌で高い傾向を示した．これらコラゲナーゼの生成および活性化のメカニズムは不明であるが，炎症性細胞あるいは癌細胞にもとづく体液性因子や蛋白分解酵素などにより調節されているものと推測される．